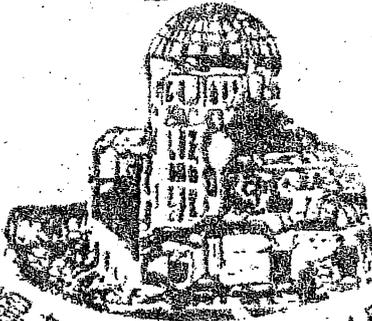
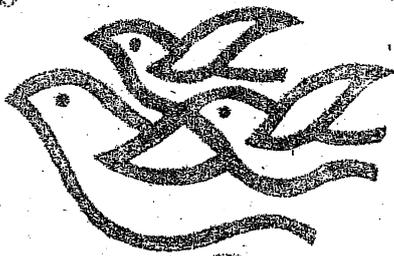


# 原水爆禁止1982年世界大会

1982 World Conference against A&H Bombs

# REPORT

1982 World Conference against A&H Bombs



原水爆禁止1982年世界大会

このように、米ソ間の核戦争の危険性が、  
ますます高まれば、世界は再び何国連軍縮特別総会（SS  
D）の、今年から一月には臨時秋米の、全世界的な軍縮と、  
維持すべきの、見が、開催と、おこしました。そして、  
草の根、運動の国際的交流の場として、  
原水爆禁止世界大会が、大  
きく成功しました。真に平和な世界をつくるために、  
この世界大会を振り返り、  
とみましよう。

### 〃〃ここまど運動が昂ま、てきたのはどうして...〃〃

このように核戦争の危険性が現実のものとして高ま、  
てきたのには大きく二つの理由があります。それは、  
第一に、米ソを中心とした二大軍事ブロック間の軍拡競争が  
もたらした各種核兵器の恐るべき発達と蓄積であり、  
第二には、現に局地的な戦争状態をつくり出し、  
国際情勢の悪化です。

軍事ブロック間の軍拡競争は「軍事力均衡」論に基  
づいて、一人当たり一トンの火薬に相当する核弾頭を蓄積し、  
レーガン米大統領の「限定核戦争」構想は、  
巡航ミサイルの発達に裏付けられ、  
てますます現実のものとな、ていますし、  
イラン革命アフガニスタン問題以降、  
フォークランド紛争やイスラエルのレバノン侵  
略に至る国際情勢は、人々に「いつ核兵器が使用さ  
れるかわからない」という危惧を抱かせて  
います。

日本での日米安保条約に基づいて多数の米軍基地がおかれ、沖縄、岩国などには現実には核兵器が持ち込まれているといわれています。米軍の最前線基地として日本は常に限定核戦争の危機にさらされているのです。このような状況を背景として日本でも世界でも平和を求め、声が大きくなってきたのです。

### ///SSDⅡで示されたことは...///

平和な世界を望む大きな声に包まれて開催されたSSDⅡは、なんら実効的な成果をもたらさなかった、といわれています。このSSDⅡは、日本を議題に「核拡散防止計画」の採択でした。期限をきり厳密に軍縮を実行していくことは、いまや人類共通の願いになった。いまにもむかかわらず、米国の先頭とする日本を含む一握りの西側諸国の反対で多くの不一致点が残されたまま採択を見送られたのです。この事実は私達が平和な世界を創るには自国政府の態度を変えさせることが不可欠であることを明確に示しました。

しかしこの会議の成果は何よりもSSDⅡへ向け、全世界の草の根運動が盛り上がり世界的な連帯と統一が深まったことでしょう。レーガン米政権のビザ発給拒否という暴挙に対し全世界の平和を願う声はさかえ許さずNY100万人集会を成功させました。今後より多くの人々が運動を担い、していくことが大切です。

○原水禁世界大会報告

1回生 N君

私は右のようはスケジュールで原水禁青年世界大会に参加してきましたので以下感想を報告したいと思ひます。

5日の青年学生フォーラムで一番心に残った発言は宗教者青年平和協議会

代表の「宗教者の立場から互いに生かし合う世界をつくるために核兵器廃絶を訴える」というもので、私達が平和運動をや、ていくことの根源的理由を教えられ、気がしました。その他、全国各地での青年学生の運動のとりくみが報告され、若い力をひしひしと感じました。

原水禁世界大会は新聞等で報道されたとおり3万人というこれまでにならぬ規模で盛り上がり、海外代表の様々な報告は全世界での草の根運動の昂まりを伝えていました。'広島アピール'が満場の拍手で採択され、5.23東京行動の盛り上がりを受け、これまで運動に参加してこなかった人を巻き込んだ集会として大きく成功したことは今後の運動の広がりを見せ、頼もしく感じられました。一緒に参加した友人は「『ダイ・イン』で、核爆した人たちの気持ちを少しながらども実感できた」と語りました。

8.5	青学フォーラム	青年学生フォーラム
	国正平和大行進	青年学生フォーラム
	折鶴平和行進	青年学生フォーラム
	原水禁世界大会	青年学生フォーラム
6.	分散集会	青年学生フォーラム
7.	核爆者の方と語り	青年学生フォーラム
	原水協集会	青年学生フォーラム

6日の分散集会では「軍縮と核兵器完全禁止」というテーマで、具体的にどう運動をすすめるかを討議しました。その中で「一方的軍縮」の重要性が共通認識となり、憲法9条の先進性も改めて明らかになりました。東京中野区の非核都市宣言推進の運動の報告は、参加者をカブけよとともに「東京宣言」で示された“非核地帯化をすすめる核兵器廃絶を”という課題の現実的展開を示しました。が、中ごろ一番感じたのは「なるべく早い時期に運動の分裂を統一することが大切だ」ということで、一致団結して核兵器廃絶に向けて運動をすすめない、現実には政府の軍縮路線をかえさせよ力にはなりがたい、と思わせよ発言を多く聞きました。

7日には原水協の「被爆者のオト語り集い」に参加し、実際の被爆という経験は戦後20年経て生まれた者には思いも及ばないような悲惨なものだ、と改めて痛感しました。

私は初めて広島を訪れたのですが、崩れ落ちた原爆ドームの側を通る度に、平和な世界を築くことがいかに大切なことが、そのために被爆体験を持つ日本国民が平和運動の先頭に立たなければならない、という思いを持たされました。今後も、この思いを原点に草の根運動を担っていきたいと考えています。

皆さん、ともに頑張りましょう。

○ 原水禁世界大会「若者の広場」

6月に行われた原水禁世界大会の分科会「若者の広場」では、青年労働者、地域の青年団や学生の積極的な取り組みが報告された。自分たちの運動が全国的な規模を繰り広げられているという事に確信した。核基地の町若国での「若国平和村」の取り組みや、大分での1万人集会等の取り組みには、現在の反核運動の広がりを実感した。

しかしながら、76年からの統一世界大会から、「妨害分子の排除」が確認されていたにもかかわらず、「カリマルせん滅」等殺人や暴行を運動を針に掲げている「中核派」が参加している会場が異様な雰囲気になっていったことや、「三里塚……」を連発していたことには、腹が立つと同時に、かえって統一の運動を阻害しているということがはっきりとわかった。

このことは、全労連の代表が自らの運動の報告と同時に、「中核派」の参加についての正当な批判に対しての妨害に如実に示されていた。

今後、原水禁運動を更に発展させていくためには、国民運動推進連絡会議のような統一した運動母体を発展させると共に、暴力を公然と掲げる暴行集団の参加には、断固とした態度を取っていくことが必要であろう。(文責: 2年生 M・N君)

『追加運動のさらなる発展と統一のために』

これまで盛り上げ、いたる運動をさらなる統一していくことを考えるとき、これこそ統一課題として追求されてきた「国民署名」、「5.23東京行動の「対政府要請決議」、今大会の「東京宣言」、「ヒロシマアピール」、「ナガサキ・アピール」の三つを基盤にその内容を発展させる方向を見なければいけないでしょう。今大会で確認された「軍事ブロック解消」、「時限付包括的軍縮計画の実施」、「被爆者援護法制定」、「非核地帯化促進」などの継続的運動と同時に、アメリカの限定核戦争を補完する形で軍拡を進める自民党政府に対する運動を強めなければなりません。それは、国民の統一した運動を進めるものでなければなりません。私たち学生にとっては、全国の学生の団結や大学人の共闘が必要となってくるでしょう。

みなさん、ともに平和な日本、世界をめざして頑張ろうではありませんか。

### 行動提起

i) クラス・ゼミ・サークルから学習会・討論会運動を進めよう。

ii) 10.21京大集会、京大学生連絡委員会に参加しよう。

iii) 全学連「世直し署名」に取り組もう。

(13日  
結成式  
4:10~  
at A141)

—1982. 9. 9—

**教養部自治会**

**常任委員会発行**

# 東京宣言

地球はいま、重病にかかっている。かつては勝つた自らの体内に、癌細胞のごとく増殖しつづける核兵器その他の破壊的な核技術の危険な病巣を宿している。その存在は、すでに、私たちのそこそこを蝕んでいる。このままでは命が危い。病巣は、できるだけ早く私たちの力で除去せねばならない。

S S D I I は、この病める惑星を適確に診断し、具体的に効果ある治療方針を確立することに失敗した。われわれは、被爆者たちの疼きをわが心の痛みとして、世界を核戦争にするかと声を限りに叫んできた。われわれの平和運動は、非軍事化と解放を目ざす国際的産業であり、現存する軍事ブロックを越えるものである。

われわれにとって、平和とは戦争をしないということ以上のものである。平和は社会的・経済的正義を要求し、政治的自由、人権の尊重、民族独立の権利を要求する。

核抑止論は恐怖の均衡を募らせるばかりだ。核戦争が限定可能で管理可能で、勝利可能だというのは、危険さわまりない幻想だ。この惑星を救い、人類の生存を保護するためには、軍事ブロックの対立の強化ではなく、国際間の紛争における力の行使に反対し、核兵器の完全な禁止を最優先とする包括的な軍縮措置をとることがこそが遅滞なく航行されなければならない。こうしたプロセスのためには、一方かつ自主的な諸措置をとることが決定的に重要である。われわれは、この当然の要求が諸国政府の要求となるよう、総力をあげて多様な反核・平和の運動を展開し、われわれの環境を守り、われわれに続く世代の利益のための平和的な直接行動のキャンペーンを支持しよう。

世界の人民は、この一年、戦争を動かすは大方行動をおこした。世界中で何億もの人が、軍備縮減の危機と核燃料サイクルの危険性を自覚し、声をあげた。テクニカル団連中総長が言ったように、軍縮は、われわれが近づくとき遠くの願望ではない。われわれは、人民大衆こそが歴史の担い手であり、核兵器完全禁止をふくむ軍縮と平和の実現は、われわれ人民の努力にかかっていることを確信する。

世界のすみずみから海外代表一〇〇人をふくむ七〇〇〇人の参加を得て開かれた原水爆禁止一九八二年世界大会東京国際会議は、友好と連帯を深めつつ活発な討論を展開して、以下の諸点に合意した。

- 一、核戦争を阻止することは、人類の生存と文明の継続発展にかかわる至極な課題である。限定核戦争構想は虚妄である。われわれは、核軍拡競争をただちに停止し、逆転させるよう厳粛に要求する。
- 二、核兵器、生物兵器および化学兵器の研究、生産、貯蔵および使用は、人道に反する犯罪として禁止されなければならない。人類最初の核戦争である広島・長崎および核兵器、生物兵器および化学兵器の開発に伴う被害は、全ての国の為政者・軍人・市民に周知徹底されるべきである。われわれは、核兵器の使用と開発による被害者は、関係当事国政府の手によって十分に援護されるべきであると確信する。とくに、日本の運動が要求している国家補償の精神にもとづく被害者援護法は日本政府の手で速やかに制定されるべきである。
- 三、核兵器完全禁止を最優先課題とする、時間枠をかけた約束力のある包括的な軍縮計画は、遅滞なくたぎちに策定され、実行に移されなければならない。

- 四、核攻撃を認めないのはもとより、核兵器の研究・開発、生産、保有、実験、持ち込みおよび核技術に伴う廃棄物処分を認めない非核地帯を、アジア、太平洋、インド洋、アフリカ、中東、地中海、バルカン、ヨーロッパ、スカンジナビア、北・中央および南アメリカ、オセアニアなど、世界いたるところに広げ、究極的に地球を非核化しなければならない。この方向に合致する村、町、都市、地域を非核化するための活動が奨励されるべきである。

五、「平和と安全は軍事同盟による兵器の蓄積、抑止力の均衡、戦略的優位によっては維持できない」(第一回国連軍縮特別総会最終文書)ことをくりかえし想起し、いかなる軍事ブロックと軍事同盟も、その解消にむけて関係諸国が責任ある具体的一歩を踏み出すべきことを強く要求する。この目的にむけて、諸国政府は、各国人民の支持のもとに一方的なイニシアティブを発揮すべきである。

六、核兵器完全禁止をふくむ軍縮への国際環境を改善し助長するために、国際間の紛争解決を軍事的手段に訴えることに反対することはもとより、軍事費や武器移転を抜本的に削減すべきことを要求する。

七、核軍備競争と核燃料サイクルは、膨大な人的・物的資源の浪費であり、それらが平和の諸目的のためにふりむけられるべきであるばかりでなく、核軍備競争が続けられていること自体が、毎年幾百万の餓死をさそい、医療・教育・環境・資源・開発など多くの面での南北格差を生み出していることを認識し、我々は抑圧と核の脅威のない世界をもとめる運動を第三世界の人民の運動と連帯させて発展させるべきである。

八、我々は、世界各地で広島・長崎の被爆の苦痛を普及するなど、反核・軍縮の諸活動をひき続き圧倒的に高揚させるよう、いっそうの創意と工夫努力を傾ける。我々は、相互の交流を深め、互いに啓発しつつ、それぞれの多様な運動を発展させ、核兵器完全禁止の人類史的大義の実現にむけて精力的に奮闘する。

九、核燃料サイクルと核兵器拡散との間の相互関連を認め、われわれは核エネルギーの一切の軍事利用に反対する。さらに、われわれは、核燃料サイクルの結果おこる被害についてきびしく警告し、アメリカその他の先住民の苦しみ、土地収奪や放射能汚染の犠牲者について深く憂慮する。

十、われわれは、現代の軍事化政策に反対するだけでなく、平和運動において、地球およびその生物との調和、すべての人民の平等と権利の尊重を反映した新しい価値観や生活様式および技術を、先頭に立って創り出さねばならない。

十一、われわれは、政府の行為と人民の行為とはっきり区別する。われわれは、軍縮の実現に必要な諸措置をとるうえで、運動が政府に訴え、圧力をかけるべきであると信ずる。われわれはまた、世界各国人民こそがみずからの行動をつうじて軍縮に向けて各国政府を動かすことができるし、また動かすことになることと信じる。

われわれは、世界各国政府に以下のことを訴える。(1)完全核軍縮に向う一歩として核兵器の先行不使用を誓約すること、(2)全世界に非核地帯をひろげること、(3)核保有諸国間に信頼感を育てるため、また二国間、多国間軍縮協定への第一歩として、一方的軍縮のイニシアティブをとること、(4)すべての核実験を終わらせること、核兵器その他の大量破壊兵器の実験、生産、配備、を即時凍結し、全面軍縮への第一歩とすること。

軍縮への道の 環として、われわれは世界各国人民に失業、貧困、病氣、無知に反対するキャンペーンを起こすよう呼びかける。途方もなく巨額の軍事費がもたらした資金は、人びとを飢えから救い、人種差別を廃棄し、不遇な人びとの状態を改善するのにふりむけなければならない。われわれは世界中の友人たちに、「大砲よりバターを」のスローガンをかかげるよう要請する。

今や、反核・軍縮・平和は時の声となっている。核軍備競争への人々の怒りは世界中に燃え上り、誰が平和を脅かしているかを鋭く見据えている。我々こそが、平和と幸せの歴史を創る。核戦争はもうたくさんだ。この課題を遂行する主たる責任は、我々人民の肩にかかっている。我々の様々なイニシアティブを通じて、我々は各国政府に軍縮を行なわせることができるし、また必ずやそれを実現するであろう。

老いも若きも、男も女も、今こそ叫べ。

ノーモア核戦争、ノーモア戦争、ノーモア核兵器、ノーモア・ヒバクシャノ

一九八二年八月二日